

12月

園だより

令和4年11月28日
佛敎大学附属幼稚園

「仏敎保育 12月のねらい」

にんにくじきゅう
忍辱持久

「制限から生まれてくるもの」

園長 佐藤 和順

「師走」の声を聞くと何とはなしに気忙しく感じ、周りの様子も慌ただしく思えます。園では「いっしょにあそぼうの日」に向けて、製作活動を楽しんでいます。その過程の子どもの観察眼の鋭さや紅葉をお金や券等に見立てて遊んだり想像力の豊かさに、「すごいなあ」と感心させられることしきりです。寒さに負けず、今年最後の月を元気に過ごしていきたいと思ひます。

今月の保育の目標は「忍辱持久（にんにくじきゅう）逃げ出さず試練に立ち向かう」です。「忍辱」とは、忍耐すること、辛抱すること。「持久」とは、長い時間持ちこたえること、目的に向かって心を合わせ努力することです。私たちは生きている間に大なり小なり辛いことや苦しいことに出会ひます。そのような困難から逃げ出さず、自分に与えられた試練と受け止めて努力を重ねたなら、心は確実に鍛えられ、向上するに違ひありません。また決して諦めず、目標に向かって努力を重ねていくことで人間的に大きく成長することを目指しましうということ。まさに今の時代に必要な態度かもしれませぬ。

生きている中でいろいろな困難に出会ふ。大人に限らず、子どもも同じです。特に集団生活である園の中では自分の思ひとおりにいかぬことや、我慢しなければならぬことが多くあります。遊具を使うときには順番を待たなければならぬませぬ。友達と分け合わなければならぬ場面もあるでしう。大人にとっては何でもないことでも、人生経験の少ない子どもにとっては一大事です。先月よりこども園化のための工事が始まっています。子どもの安全をしっかりと確保するために、園庭などの遊びのスペースや活動に制限がかかってしまひます。個人的には、その限られたスペースや活動の中で、今までにはない遊びや関係性が生まれてくるのではないかと期待をしている一面もあります。工事ごっこであったり、隣の運動場だからこそできるダイナミックな活動など、新しくいろいろな活動や関係性が生まれてくれれば良いと期待しています。

制限や困難、いつもと違う状況に出会ふことも子どもにとっての大切な学びです。ただそこに必要なのは、自分で解決できない事案が出た時には、「いつでも頼っておいで」「いつも見守っているからね」という保護者と子どもの、また、保育者と子どもの信頼関係です。忍耐の先には必ず喜びが待っていると信じ、子どもとの関係性をしっかりと維持し、日々忍辱持久に努めたいものです。

